



清流news

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1

Tel 042-514-8309

発行日 1月・7月

Vol. 128

発行
日野市
環境共生部
緑と清流課

しぜん・ひと・まち

あさかわ写真展 ～10年の歩み～ を開催します

日野市と八王子市でおこなっている浅川流域連携事業の一環で、浅川に関する写真展を開催します。この写真展では、過去10年にわたって実施された「あさかわ写真コンクール」の最優秀作品（一般の部および中学生以下の部の計20作品）を八王子市と日野市で交互に展示します。会場ではアンケートも実施していますので、10年間の浅川の変遷を鑑賞し、環境保全に関する皆様のご意見をお聞かせください。詳細は下記のとおりです。

期 間

6月～1月末

展示場所

日 野 市
市民会館
平山図書館
本庁舎一階など



八王子市
長池公園自然館
八王子市役所本庁など

※八王子市と日野市で交互に
展示します。

上記の内容は日野市のホームページにも掲載しています。

※展示場所や期間は変更となる場合があります。



あさかわ写真展
日野市HP



しぜん・ひと・まち あさかわ写真展～10年の歩み～

八王子市・日野市 浅川流域連携事業

-展示期間-

2021年6月～2022年1月（八王子市・日野市で交互に展示予定）

※日程・会場の詳細は各市ホームページをご確認ください。



八王子市・日野市で連携し、10年にわたって
開催されたあさかわ写真コンクールの
歴代最優秀作品を展示します！

八王子市水産流通課
八王子市元本郷町三丁目24番1号
TEL:042-620-7291(直通)
FAX:042-626-3019



日野市緑と清流課
日野市神明一丁目12番の1号
TEL:042-514-8309(直通)
FAX:042-581-2516



「あさかわ写真展」案内チラシ

浅川潤徳水辺の楽校

全国一斉水質調査を実施しました（令和3年6月6日）

浅川潤徳水辺の楽校では、毎年6月に実施される「身近な水環境の全国一斉調査」に参加しています。第18回目の調査となる今回も浅川潤徳水辺の楽校として参加し、潤徳小学校付近を流れる浅川の水質を調査しました。調査はパックテストでおこなっており、採取した川の水の色の变化で水質を判断しています。また、大型のシリンダーによる濁度の測定もしています。これら

の調査結果をもとに水質マップを作成し、身近な河川の水質を把握することができます。例年は、水辺環境に興味・関心を抱いてもらうことを目的に、潤徳小学校の子どもたちと一緒に水質調査をおこなっていました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、昨年に続き浅川潤徳水辺の楽校のスタッフのみで実施しています。

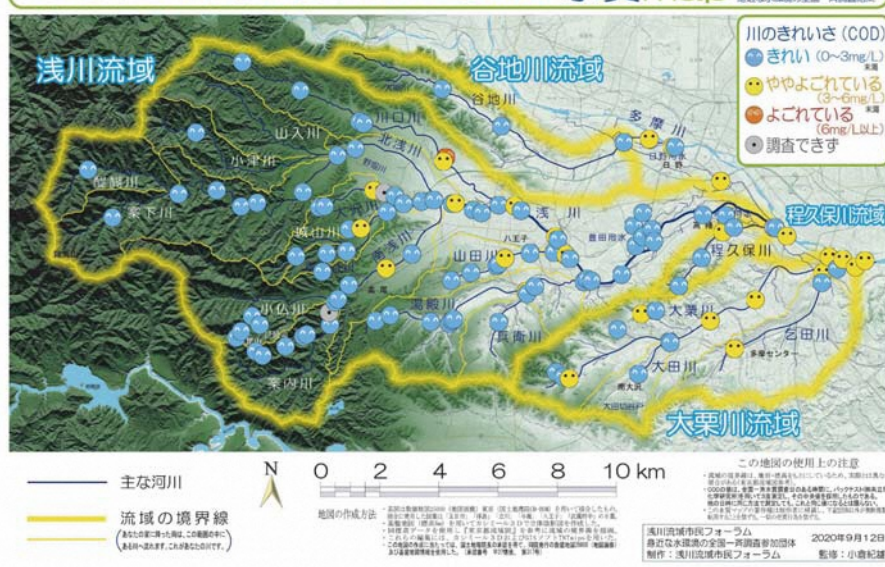


三二水族館 in 中央図書館

日野市立中央図書館1階で「三二水族館」を展示します。期間は夏休み期間中の8月3日（火）から8月29日（日）です。この機会に図書館に足を運んでもらい、日野の水辺や自然を身近に感じていただくとともに、

たくさん本の出会いきっかけになればうれしいです。子どもにも読みやすい魚の図鑑や水辺に関する本から、大人向けの環境や水に関する本など、多くの関連する本をご用意してお待ちしております。

あなたの川はきれいですか？ 浅川流域水質map 2020.6-8実施



水辺の楽校では スタッフを募集しています

浅川潤徳水辺の楽校では毎年、潤徳小学校の子どもたちと浅川ふれあい橋付近を中心に、水辺環境とふれあう活動をおこなっています。また、5月～10月にかけては授業の一環で米作り体験をしています。20年以上続くこれらの活動を継続するために、浅川潤徳水辺の楽校では一緒に活動してくださるスタッフを募集しています。子どもとの交流や水辺環境に興味のある方は、緑と清流課にお気軽にご相談ください。

問い合わせ

緑と清流課

☎ 514-8309（直通）



多摩川 浅川 クリーン作戦を実施しました (令和3年4月25日)

令和3年4月25日(日)、緑と清流課主催多摩川・浅川クリーン作戦を実施しました。クリーン作戦は、多くの市民の方の参加を募り、行政と協力して一級河川の清掃活動をおこなう大規模なイベントです。今年も1,500人以上の方に参加いただき、多摩川並びに浅川の環境美化にご協力いただきました。今年度の実施にあたって参加者には、活動中のマスク着用や一定のソーシャルディスタンスを心がけていただき、新型コロナウイルスの感染拡大予防に十分配慮した体制でおこないました。また、実施時間を1時間と短縮しました。(例年は2時間)

日野市の一級河川を保全するためには、清掃活動による環境美化は必要不可欠です。来年度も多摩川・浅川クリーン作戦を実施したいと考えていますので、その際はご参加宜しく願います。

皆様にご協力いただき集められたごみの内訳は表1のとおりです。

表1 令和3年度クリーン作戦における収集ごみの総量

種 類	重 量	
可 燃	600kg	可燃物合計 730kg
可燃性粗大ごみ	130kg	
不 燃	740kg	不燃物合計 860kg
不燃性粗大ごみ	120kg	
合 計	1,590kg	



水門紹介 ～豊田堰堤及び用水樋管～

平山橋のたもと、浅川の左岸沿いには豊田堰堤及び用水樋管があります。この水門は3つの門で形成されており、昭和25年3月に着工した同樋管は今も昔ながらの手動式で豊田用水から上田用水へと浅川の水を通水させています。

また、この取水口及び豊田用水上流の風景は『水辺のある風景日野50選』にも選ばれています。石積み護岸の用水の風景を堪能したい方はそのまま豊田用水沿いをお散歩してみるのもいいかもしれません。



豊田・堀之内用水樋管



(C) 2017 PASCO CORPORATION.
(C) 2017 INCREMENT P CORPORATION.
いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

浅川の流量測定を実施しました (令和3年5月25日)

日野市環境共生部では、維持管理の一環で浅川の流量を調査しています。この調査は定期的を実施しており、今回で第10回目となりました。今回の調査では流量 $0.726\text{m}^3/\text{s}$ であり、10回の調査の中で最も少ない結果となりました。近年では浅川の流量は減少傾向にあるため、このような調査を通じて河川の状態を把握し、身近な水辺環境の維持及び生態系の保全に繋げることができればと思います。



流速計による調査風景



調査地点風景
天候：晴れ (気温 $26.5\sim 28.0^{\circ}\text{C}$)

水辺のある風景日野50選

ガイドツアー〈番外編〉 ～桜を見てみよう～



令和3年3月27日(土)、水辺のある風景日野50選の番外編として、この時期にしか見ることのできない根川沿岸に咲く桜を観賞しました。コースは、甲州街道駅に集合し、日野橋を經由してクリーンセンターを通り、新井橋で解散という流れでした。日野橋についても、台風19号による被害からの復旧過程や、将来的に吊り橋となる計画があること等を、共催である「みずとくらすひの」の方々に解説していただきました。

そして、根川沿岸に咲く桜は満開に近く、当日の天気が快晴だったこともありとても素敵な景観を創出していました。ツアーに参加された方々からも好評の声をいただきました。まだまだコロナ禍が続く状況が続く中では、貴重な催しをすることができたかと思います。



用水守募集

日野市緑と清流課では、「用水守」として市内の用水路の清掃活動をおこなって下さる方を随時募集しています。

かつて東京穀倉地帯と呼ばれた日野市には、江戸時代に多摩川・浅川からひかれた農業用水路が今も市内を網の目のように流れています。これら水路の総延長は116キロにも及ぶといわれています。また、市内には数多くの湧水が湧いているなどたいへん水環境に恵まれています。

日野市では、こうした恵まれた水環境を次世代に伝えるため、清掃・維持作業など様々な活動を行っています。一方で、市民の皆さまの水への関心も非常に高く、多くの方が身の回りの水辺を自ら清掃・維持してくださっています。

このような、ボランティアで水辺維持の活動をされている皆さまを少しでも支えることができればと生まれたのが「日野用水守制度」です。「用水守制度」は日ごろ活動をする範囲を決め、あらかじめ「用水守」として登録いただくことで、万一の事故に備えた、市民総合賠償補償保険の対象者となります。

市では、今後も市と市民の皆さままで協力して良好な水辺の環境を維持管理・保全をしていきたいと考えております。

現在、400名以上の方が、用水守として活動しております。登録は、個人・グループ・自治会・企業など多くの方々を対象としています。ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。

問い合わせ

日野市緑と清流課 ☎042151418309



程久保川を考える会
(設立 1994年 会員 8名)
藤村 民世さん

程久保川は、水源（光塩幼稚園南域）から浅川との合流まで、約5・9km流れ、日野市内で終結する一級河川です。身近なこの川を市民の手できれいにし、「地域の親水の間・憩いの場」として保全することを願って活動を始めました。

まず、「どれだけ川の水が汚れているのか?」「人が川に入って大丈夫なのか?」等を知るために、試薬を使った水質検査を毎月5地点で行い、また、クリーンデー（川掃除）を年2回（5月・10月）実施してきました。ひの広報や横断幕等で参加者（ボランティア）を募り、これまで明星大の学生さんを含む様々な年代の方々との協力のもと、毎回40

〜60人の参加をいただきながら継続してきました。

当日は、おもに川のごみを引き上げる作業です。参加者に保険をかけ、事故がないようにに注意し合い、終わるまで緊張の連続ですが、きれいになった川にカワセミが姿を見せてくれたり、通りがかりの方から「きれいになりましたね」「ありがとう」などと労いの声をかけていただくと、疲れも吹き飛び、爽快感いっぱいになります。

かつては、自転車などのごみもありましたが、近年は、殆どがプラスチック製のごみです。台風で中止になったあと川にはごみは無く、掃除をしたみたいにきれいになります。さて、ごみは何処にいったのかと想像します。今、マイクロプラスチックによる海の汚染が深刻だと言われています。いろいろな理由で川に入っ

たプラスチックはやがて海にたどり着き、波や紫外線によって細くなり、また溶け出した有害な化学物質も、海の生き物に深刻な害を与えています。やがて人間にもその害は及ぶでしょう。自然界で分解されないプラスチック類は、一人一人が川に入れないよう気をつけ、陸上で安全に処理するものではないでしょうか。「水の郷ひの」の程久保川を「親水の間・憩いの場」にするためにさらなるご協力をお願いいたします。



2018年 程久保川クリーンデー



● **山王下公園** (街区公園74)

所在地：豊田4-46-40 / 面積：576㎡
／開園日：昭和56年4月1日

この公園のすぐ北側にあるかじ(梶)山には古くから山王様(日枝神社)が祀られていました。やしろ(社)のあたり一帯は杉の森で、大木の根元からは、清冽な地下水が、いつもこんなと湧き出していました。台地上の畑に通う人々は、ここで飲み水を汲み、又わさびを作る人もいました。水は更に山下の水田をも潤したものです。

昭和10年代、この森は伐られ、その後、山王様は若宮神社に合祀されて、昔の面影はなくなりました。

● **川久保公園** (街区公園68)

所在地：日野1360-4 / 面積：192㎡ / 開園日：昭和55年1月1日



(C) 2017 PASCO CORPORATION.
(C) 2017 INCREMENT P CORPORATION.
いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

昔から多摩川に洪水があると、たびたび四ツ谷下(現在の中央線鉄橋南詰)の堤防がきました。その濁流はいつも南東に向かい、今の市立一中の辺りから、この川久保一帯の低地に流れ込み、さらに中万願寺方向に流れて水田に被害を与えました。この災害は昭和初期まで続きましたが、その後堅固な堤防ができて洪水の心配から解放されました。



黒川マイスター講座



令和3年5月29日に『令和3年度黒川マイスター講座』の開講式を行いました。10名の市民の方々が受講生となり、様々な講座を通して自然について学んでいます。

～黒川マイスターとは？～

黒川マイスター講座は、東豊田緑地保全地域及び黒川清流公園を活動の拠点として、歴史や地形、鳥、昆虫、植物など幅広い分野の講義・実習を通して身近な自然環境の大切さや魅力を実感してもらい、その自然環境の豊かさを広めていただく「マイスター」を育成するものです。



令和3年度開講式の様子



昨年度の黒川マイスター講座の様子



上田用水 豊田用水流末

② 上田用水
— 絵図に描かれた用水
上田用水は日枝神社そばの浅川から取水し、川辺堀之内、上田、宮を経て万願寺2丁目根川大橋で根川（上流は目野用水）に合流します。途中、豊田用水が流入するため、日野用水もわずかですが流れ込みます。上田、宮あたりは江戸時代の絵図にもあり、比較的昔からの流れをとどめ、ゆるやかに揺らぎながら流れています。逆川と呼ばれる水路

みず
くらし
まち
水辺のある風景
日野50選

水辺のある風景 日野50選 選ばれた水辺を紹介します



上田用水、新井用水へどうどめき分水

もそのままです。しかし川崎街道から東は土地区画整理事業により支線は無くなり、もっぱら雨水排水路となっていました。現在は、浅川の流れが変わり取水出来ていません。豊田用水の流末が上田用水です。上田には浅川の氾濫に備え昔は信玄堤（かすみ堤）があったそうです。昭和の初めごろ梨の栽培がはじまり、今でも梨やブドウの生産が盛んな地区です。



大木島公園

④ 新井用水親水路
新井用水の取水口は浅川の堤防工事に伴い、昭和57（1982）年に撤去されました。流れる水は上田用水からの分水（新田用水）です。その後上流には水辺の植物が植えられ、生きものの生息に配慮した水路として整備されました。万願寺の土地区画整理事業に伴い水路は整理統合されましたが、石積みの水路として整備され、特にふれあい橋近くの大木島自然公園の水辺では子供たちが生きものの探しなど楽しむ場となっています。初秋には彼岸花が咲きます。訪れたのは9月の下旬、彼岸

花はちょうど花の盛りです。初秋の日差しを浴びて咲く彼岸花がたいへんに美しいです。ほとんどが紅い彼岸花ですが、少しだけ白い彼岸花も見つけることができました。地元では知られているのか、彼岸花を目当てに来園した様子の人の姿もありました。花を間近に見ることができ、あまり人も多くないから写真を撮るには好都合なのでしょう。彼岸花観賞の穴場と言っているかもしれないですね。

新井という地名は現在、浅



新井用水上流

川の南にあります。元は浅川の北が新井の中心でした。今は用水に名をとどめるだけとなりました。



清流ニュースに ひとこと

清流ニュースに、「こういう記事を書いて欲しい！」や「こんなイベントを企画して欲しい！」など、皆さんからのご意見・ご要望を募集したいと思います。

次号以降の清流ニュースの編集の参考にさせていただきます。

宛先（お手紙、FAX、メール等でお願ひします）

日野市役所 環境共生部 緑と清流課
清流ニュース担当宛て

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1

ファックス 042-581-2516

メール seiryu@city.hino.lg.jp



エビは最も身近な水辺の生きもの？

市内の川や用水路に網を持って遊びに行くと、どんな生きものが見つかるでしょうか？子供、大人問わず、多くの人が大きな魚を捕まえようと張り切るかもしれませんが、動きの速い魚は簡単には捕まえることができません。ほとんどの場合代わりに網の中に入るのは、小さなエビ達です。今回は、そんな市内でよく見ることが出来るエビの仲間をご紹介します。

●カワリヌマエビの仲間

市内の水辺で最も数が多く、ほとんどの場所で見つけることができます。魚取りをする人よりもたくさん獲れるため、見たことがある方も多いと思います。場所によっては一回網を入れるだけで何十匹も獲れることがあります。実は中国や韓国原産の外来種

エビで、もともと釣り餌やベイト用として輸入・販売されていたものが、野外に捨てられたり逃げ出したりして増えてしまいました(複数種いることから、まとめて「カワリヌマエビの仲間」としています)。体長3cm程の小さなエビですが、雑食性で環境への適応力が高く、強い繁殖力を持ちます。自ら川の上流へと登っていく性質も持っているため、ほとんど生息地を広げていきました。赤や黒、茶色、透明、縞模様など、様々な体の色をしているのも特徴です。

●ヌカエビ

この地域に昔から棲んでいる在来種のエビです。環境の悪化や外来種の影響により、生息地が急速に減少しています。現在のところ日野市内では、多摩動物公園の昆虫生態

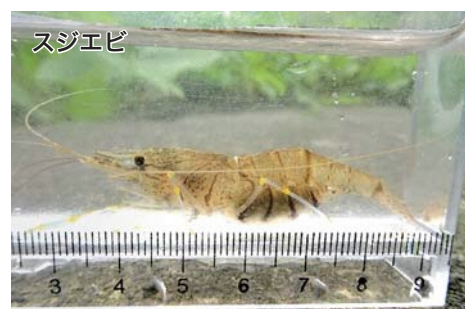
園の温室内を流れる水路でしか確認できていません。数年前まで多摩川河川敷の池にも生息していましたが、現在はカワリヌマエビばかりになってしまいました。大きさや食べ物、暮らす環境も似ているため、繁殖力の強いカワリヌマエビとの生存競争に負けてしまったのかもしれない(見分け方は写真参照)。

●スジエビ

体長5〜6cmほどになる少し大きなエビで、透明な体に黒い筋が入っていることが名前の由来です。雑食で、他の生きものを襲って食べることもあります。カワリヌマエビと比べると数は少ないですが、たくさんいる場所もあります。

●エビ達の役割

小さなエビ達は、コケや生きものの死骸を食べて片付けてくれる掃除屋さんです。数が多いため、魚やカワセミなど他の大きな生きものにも大切な食べ物にもなっています。



います。先ほどの外来種のカワリヌマエビは急速に数を増やしてしまい、在来種のスジエビには悪い影響を与えています。その一方でエビを食べる生きものは、食べものが増えて喜んでいるのかもしれない。この2種類のエビは姿が似ていることから、誰もが気が付かないうちに置き換わってしまっているかもしれません。魚獲りの時も、「何だ、またエビか」と思わずに、ぜひじっくり観察してみてください。いつも当たり前に見られる生きものこそ、自然環境の変化を知る大事な手がかりとなります。

文・写真 日野の自然を守る会
片山 敦

あとかき

この記事が皆さんのお手元に届くころには2回目のコロナワクチン接種が行われ、オリンピック開催について最終議論をしていることだと思います。

近年これほど私たちの日常の変化が起きたことは無く、日々の生活リズムが崩れるとは想像もつきませんでした。

しかし、自然は何事もなかったように時を刻んでいきます。人間の無力さを見せつけられた時であったと痛感しました。私たち人間が自然を破壊し開発する時代から、共存・共生していく時代に進みつつあります。私も含めて、皆さまも自身の生活を振り返り、日々の生活を考えるきっかけにしたいかがでしょうか。

まだまだ予断を許さない状況が続くと思いますが、熱中症対策しつつこの夏を乗り切っていきたいものです。